

広島県

災害時のリスクマネジメントに関するワークショップを実施

支援概要

■支援の経緯

平成30年7月の豪雨災害について、被災地の商工会の被害への対応の振り返りと課題点を整理し、事務局長会議で情報の共有を図り今後活かしていきたいと考えている。その際に、専門家からの視点でリスクマネジメントやBCP策定の説明を頂き、今後同様の災害が起こっても問題が最小限になるようにしていきたい。

今回、職員の能力開発やコーチング等の研修教育を得意としており、BCP策定支援業務などの組織におけるリスクマネジメントについて説明できる専門家のH氏に講師を依頼した。

各商工会がリスクマネジメントについての理解を深め、今後のアクションに繋がる支援を期待したいと考えている。

■専門家による具体的な支援内容

34箇所の商工会事務局長が研修に参加。講師よりBCP策定のポイントと具体的な事例を説明し、リスクマネジメントに関する基本概念を説明した。その後、複数のグループに分け、今回の豪雨災害時の対応として最もベストな対応は何かというテーマでグループワークを行った。グループで話し合われた内容を各々が発表し、その後全体で課題への解決方法を検討した。最後に講師がまとめとしてリスクマネジメントの要点を整理し、危機管理マニュアルのポイントや必要項目の情報提供を行った。

支援の効果

BCP策定について理解が浅かった単会が多かったが、ワークショップ終了後には平時におけるリスク管理の意識が高くなっていた。

具体的には複数の単会が連携して危機管理マニュアルの作成を行ったり、被災経験の教訓の明文化など専門家による支援が具体的アクションに繋がった。



専門家の声

ワークショップで議論した内容は実体験が元になるテーマであり、多くの時間を討議に費やすことによって、各々が被災経験を言語化、抽象化することで普遍的なものへと整理することができていたと思う。

今後は今回講義をしたBCP策定や危機管理マニュアルの作成など、地域にあった具体的な成果を生む活動に繋がれば専門家としてもうれしい限りである。

団体の声

災害を見越した危機管理について、事例発表やグループワークを通して、理解を深め、課題を明確することができた。危機管理マニュアルの事前準備や訓練が重要であることを、参加者全員で情報共有できた。

今後、商工会の危機管理マニュアルの作成及び改訂時、研修の内容を活かしたい。